

「北見地方花卉生産出荷組合」におじゃましました

オホーツク総合振興局から、北見地方花卉生産出荷組合をご紹介します。
春作業のお忙しい中、服部博泰組合長（北見市）にお話を伺いました。

○北見地方花卉生産出荷組合の歩み

北見地方花卉生産出荷組合は、平成4年4月7日に北見市・網走市・美幌町・津別町・遠軽町の農家34名で設立しました。それまでは花きを生産する農家はありませんでしたが、当時の北見地方公設市場社長から「花きも取り扱っているから作って見ないか。」と依頼があり、地元市場用に作り始めました。

比較的栽培が簡単なストックをはじめ、トルコギキョウ・アスター・スターチスを導入しました。

しかし、地元出荷だけでは、すぐに供給過剰になってしまいました。そこで、道外（東京・神奈川・大阪等）にも販売を拡大するため、平成5年、農協に花卉部会も設立しました。

設立後10年間は、販売額7,000万円（地元3,500万円、道外3,500万円）の実績がありました。

昨年20周年を迎えましたが、現在は北見市、美幌町、津別町の農家17戸が加入しており、年間2,600万円（地元1,800万円、道外600万円）の販売実績で推移しています。



創立20周年記念祝賀会の集合写真



出荷前のストック
(普及センター提供)

○北見地方花卉生産出荷組合の取り組み

主力のトルコギキョウのほか、スターチス、アスター、ブプレウルム、デルフィニウム、カーネーション、ストック等の切り花を中心に、ガーデニング用の品目も生産しています。

主力のトルコギキョウは平成5年に苗を購入し、試行錯誤しながら作り始めました。現在は、自家育苗で栽培しています。

トルコギキョウは、アレロパシーによる連作障害が起きるため、その対策を模索中です。広島県からトルコギキョウの専門家を招いて講義を受けたり、活性炭がアレロパシーの原因物質を吸収してくれるという研究成果を試しているものの、あまり効果が見られないことから、現段階では土壌消毒で対応しています。島根県の大学でも研究中であり、新たな研究成果を期待しています。

○今後に向けて

高齢化が進み離農する方も多く、現在は設立当時と比べ半分の組合員に減っています。服部組合長は、新規就農者等の若手の育成・サポートをしていきたいと話します。

北見地方の花き生産は地元市場型の産地形成をしており、品質の良い北見地方花卉生産出荷組合の花きは市場からも高く評価されています。花き生産に取り組みたい方は是非お越しください。新規就農等のご相談は市役所や町役場が窓口で、農協・普及センターもサポートをする体制となっていますので安心です。北見地方で新規就農しませんか。



～出荷前のトルコギキョウ～（普及センター提供）



生育中のベゴニア（4/20 撮影）
ガーデニング用の草花も生産しています。



育苗中のトルコギキョウ（4/20 撮影）
シートで覆い温度を調整しています。

（平成24年4月取材 オホーツク総合振興局農務課）